

～ 未来へつづけ！ ～

# 磐田市みんなが主役のまちづくり条例

## 【解説書】

磐田市



このページは空白です



## 1. 「磐田市みんなが主役のまちづくり条例」とは

### (1) 磐田市協働のまちづくり推進条例を改正しました。

○平成21年4月に施行された磐田市協働のまちづくり推進条例は、協働に関する基本的な考え方を明確にし、広く共有することで、協働のまちづくりの推進を図り、もってより良い地域社会の実現に寄与するための条例でした。

### (2) 条例改正の背景

○平成27年度から、地域に交流センターが設置されるとともに、交流センターを活動拠点とする地域づくり協議会が設立され、地域の課題解決や役員の負担軽減に取り組む体制づくりが進められてきました。

○しかし、人口減少、少子高齢化がさらに進む中で、高齢者世帯の増加、定年後の就労や共働き世帯の増加により、役員の選出に苦慮、自治会の運営が困難になるなど、時代の変化に対応しきれない地域が増えてきています。

○このような現状に柔軟に対応するためには、地域づくり協議会を中心に組織、類似事業の整理を行い、携わる人の負担軽減に繋げ、誰もが無理なく気軽に地域活動に参加できる環境を整える必要があります。

○さらには、私たち一人ひとりが、主体的にまちづくりに参加すること、まちづくりに関わる人材の確保と育成が求められています。

○以上を踏まえ、これからを見据える中、磐田市みんなが主役のまちづくり条例の整備を求める声がありました。

### (3) 条例改正の目的

○市民がまちづくりに関心を持ち、主体的に取り組むことの推進を図ります。

○地域づくり協議会を中心としたまちづくりを推進するとともに、人材の確保と育成を図り、地域活動が持続可能なものとしします。

#### (4) 条例改正のポイント

##### 「名称」

○市民自治の推進を図るため、名称を「磐田市みんなが主役のまちづくり条例」としました。

##### 「市民自治によるまちづくり」

○市民が主体的な活動又は協働により、地域の実情に合ったまちづくりに取り組むことと規定しました。

##### 「地域づくり協議会」

○地域づくり協議会を中心に組織、類似事業の整理を行い、携わる人の負担軽減につなげる取組みを一層進めるものと規定しました。

○地域づくり協議会の役割を地域の課題解決と魅力向上に努める、地域における課題を調査把握し計画の策定に努めると規定しました。

##### 「自治会」

○自治会の役割を、自治会区域の課題解決と自治会が所属する地域の地域づくり協議会が行う活動への理解、協力に努めると規定しました。

##### 「人材の確保と育成」

○人材の確保と育成のため、自治会、地域づくり協議会及び市民活動団体は、主体的な活動、透明性の高い運営、子ども、若者、女性の参加、参画の拡大に取り組むと規定しました。

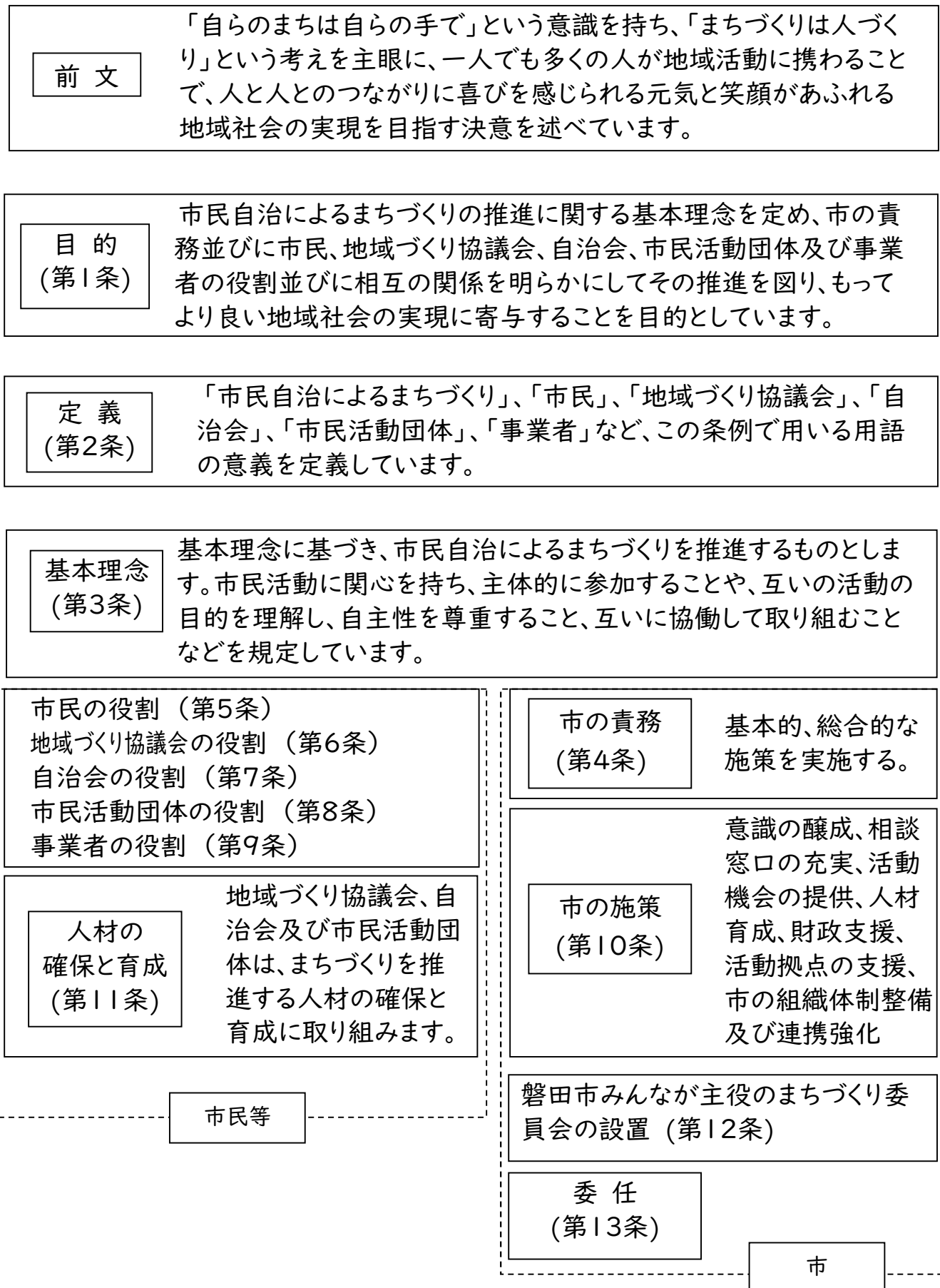
#### ワンポイント

磐田市みんなが主役のまちづくり条例は理念条例です。

行政や地域の基本的な考え方、方向性を示すものであって、具体的なルールや数値を決めるものではありません。

## 2. 条例の構成

この条例は、下記のように構成されています。



### 3. 解説

#### 前文

磐田市は、日本のほぼ中央、静岡県西部の天竜川東岸に位置し、美しい自然があふれ、古墳時代の900基以上の古墳が現存し、奈良時代には遠江国分寺と遠江国府が置かれるなど、歴史と文化が息づき、豊かな人間関係を育みながら安心して暮らせるまちとして歩みを進めてきました。

また、このまちは、スポーツのまちとしても知られ、複数のチームが活動の拠点としているほか、世界に羽ばたくスポーツ選手を輩出する環境や風土が受け継がれています。

まちづくりの歩みは、自治会や市民活動団体を中心とした取組により支えられ、近年は複数の自治会や市民活動団体で構成した地域づくり協議会を市内全域に設立し、交流センターを活動の拠点として、地域の課題解決や役員の負担軽減に取り組む体制づくりが進められてきました。

しかし、地域を取り巻く環境が大きく変わり、市民のニーズも多様化し、様々な新しい課題が生まれてきています。

私たちは、このまちな自然、歴史及び文化をはじめ、心豊かに暮らせる環境や風土を、未来を担う子供たちへ引き継がなければなりません。そのためには、まちづくりに携わる人の負担軽減を図り、誰もが無理なく気軽に地域活動に参加できる環境を整える必要があります。

「自らのまちは自らの手で」という意識を持ち、一人ひとりが主役となって地域活動に携わることで、人と人とのつながりに喜びを感じられる多様性を受け入れた持続可能な地域社会の実現を目指すため、この条例を制定します。

解説： 前文は、条例の本則の前に置かれ、条例制定の背景や趣旨を明らかにするものです。

○人口の減少や高齢者世帯の増加、定年後の就労や共働き世帯の増加により、役員の選出に苦慮、自治会の運営が困難になる地域が増えてきていることから、地域づくり協議会を中心に組織、類似事業の整理を行い、役員や参加者の負担軽減につなげ、誰もが無理なく気軽に参加できる環境を整える必要があります。

○「自らのまちは自らの手で」という意識を持ち、「まちづくりは人づくり」という考えを主眼に、一人でも多くの人々が地域活動に携わることで、人と人とのつながりに喜びを感じられる多様性を受け入れた持続可能な地域社会の実現を目指す決意を述べています。

(目的) 【一部改正】

第1条 この条例は、市民自治によるまちづくりの推進に関する基本理念を定め、市の責務並びに市民、地域づくり協議会、自治会、市民活動団体及び事業者の役割並びに相互の関係を明らかにして市民自治によるまちづくりの推進を図り、互いの連携、協力をもってより良い地域社会の実現に寄与することを目的とする。

解説： 第1条は、この条例の目的を定めたものです。

市民自治によるまちづくりの推進を図り、より良い地域社会の実現に寄与することを目的としています。

市民自治によるまちづくりとは、第2条でも規定していますが、市民が主体的な活動又は協働により、地域の実情に合ったまちづくりに取り組むことです。地域がどのような課題を抱え、どのような取り組みを必要としているかを知り、自分のできることから活動していくことで、元気と笑顔があふれる地域社会の実現に近づきます。

また「地域社会」の捉え方は、組・班や自治会、交流センターエリア、学校区という区域から市全域に渡るものまで、課題の範囲によってさまざまな考え方ができます。

なお、地域づくり協議会については、第2条及び第6条で説明しています。



## 【市民自治によるまちづくりの取り組み事例】

まずは、地域の課題を把握することが大切です。そして、その課題を解決するための事業に取り組んでいます。ここでは、その一例を紹介します。

### ○中学生以上全住民アンケート

目的：少子高齢化や核家族化などによるライフスタイルの急速な変化は、地域のまちづくりにも大きな影響を与えています。また、地域生活の困り事や住民ニーズの多様化により、地域の課題は細分化され、これまで通りの地域活動ではその課題に対応することが困難になってきています。

地域づくり協議会と自治会では中学生以上全住民アンケートを実施することで、地域自らが課題の把握と課題の整理に取り組みはじめました。



対象：中学生以上の全住民

【こんなことが明らかに（報告書より）】

- 地域の人口推移、○地域の魅力と課題、○地域活動への思い、○生活状況、○地域環境、○情報伝達、○防災活動など

### ○豊浜地域づくり協議会の買い物支援事業「豊浜出張ふくの市」

目的：高齢者の買い物支援と交流の促進

日時：毎週水曜日10:00～11:00

場所：JA豊浜支店（会議室及び軒先）

内容：野菜、惣菜、切り花、果物ほかの販売

人員：レジ対応…JA、袋詰め支援・整理券対応…地域※

※協議会役員、ボランティアの当番制



(定義) 【用語追加】

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 市民自治によるまちづくり

市民等が主体的な活動又は協働により、地域の実情に合ったまちづくりに取り組むことをいう。

(2) 協働

市民、地域づくり協議会、自治会、市民活動団体及び事業者（以下「市民等」という。）並びに市が、対等な立場で、信頼し合い、互いの特性を生かし協力することをいう。

(3) 市民

市内に居住し、通学し、通勤し、又は市内で活動する者をいう。

(4) 地域づくり協議会

交流センターを活動拠点として、おおむね小学校区又は中学校区の地域で活動する団体及び個人で構成されている市民等による組織をいう。

(5) 自治会

市内の一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体をいう。

(6) 市民活動

市民等が、営利を目的とせず、主体的に行う、不特定かつ多数のもの利益の増進に寄与することを目的とする活動並びに良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動をいう。ただし、次に掲げる活動を除く。

ア 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを主たる目的とする活動

イ 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とする活動

ウ 特定の公職（公職選挙法（昭和25年法律第100号）第3条に規定する公職をいう。以下同じ。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに

反対することを目的とする活動

(7) 市民活動団体

市民活動を継続的に行う団体をいう。

(8) 事業者

市内において営利を目的とする事業を行う個人又は法人をいう。

解説： 第2条は、この条例で用いる用語の定義を明らかにしたものです。

(1) 市民自治によるまちづくり

市民等が主体的な活動又は協働により、地域の実情に合ったまちづくりに取り組むことをいいます。

(2) 協働

市民等並びに市が対等な立場で、互いの特性を生かし、共に協力することをいいます。

(3) 市民

ここで定義する市民とは、磐田市に暮らし、学び、働くあらゆる人です。

(4) 地域づくり協議会

支え合いによる地域活動が将来にわたって持続可能となる体制づくりを進めるため、小学校区や中学校区など一定の地域で、交流センターを拠点として活動しています。磐田市には23の地域づくり協議会があります。

(5) 自治会

自分たちの地域をより良くするために一定の区域に住所を有する者の地縁に基づいて形成された団体で、私たちの生活に最も身近な団体です。磐田市には303の自治会があります。

(6) 市民活動

社会的な責任や役割を意識して主体的に行う活動をいいます。

## (7) 市民活動団体

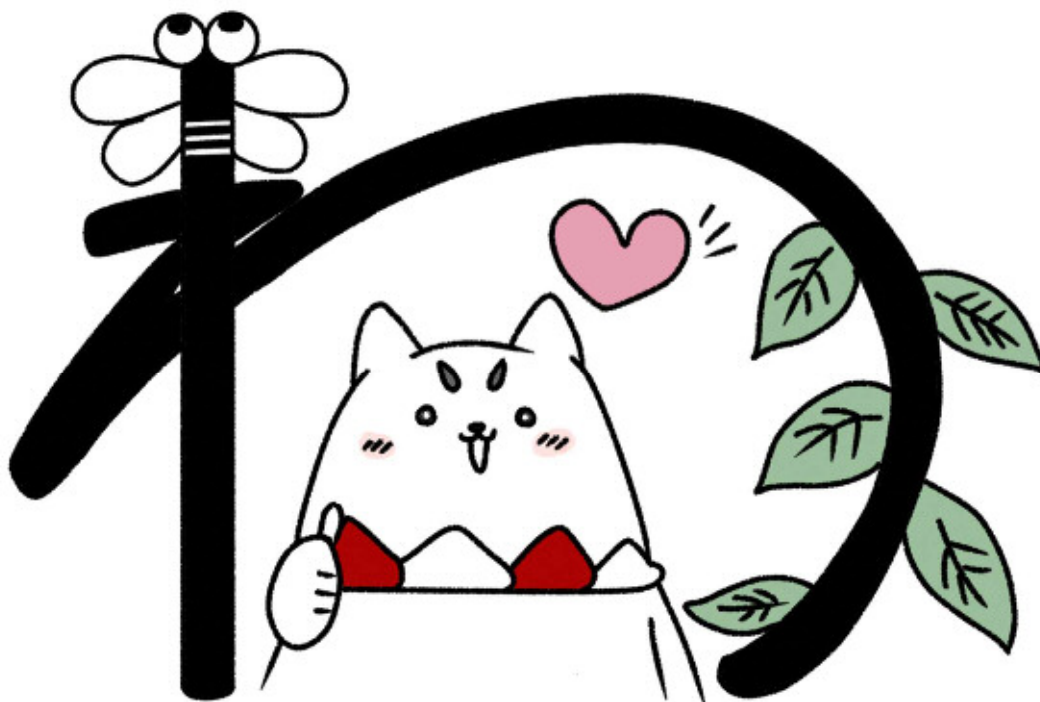
市民活動団体は、ボランティア団体、NPOなどの営利を目的とせずまちづくりに参画している団体で、PTA などの地縁型と防災や福祉など特定の目的の志縁型があります。

## (8) 事業者

事業者とは磐田市内に事務所や事業所を持ち、営利を目的として活動している個人及び法人のことです。

## 磐田市のまちづくりを表現

「互いの立場や特性を理解」、「課題を共有」、「活動内容を共有」、  
「対等な立場で連携、協力」して、まちづくりを行います。



(令和5年度 いわたまちづくりワークショップの参加者が描きました)

(基本理念) 【一部改正】

第3条 市民等及び市は、次に掲げる基本理念に基づき、市民自治によるまちづくりを推進するものとする。

- (1) 市民等は、市民活動に関心を持ち、主体的に参加すること。
- (2) 市民等及び市は、互いの活動の目的を理解し、自主性を尊重すること。
- (3) 市民等及び市は、互いの役割を理解し、協働すること。
- (4) 市民等及び市は、互いに市民活動に必要な情報を提供し、共有すること。

解説： 第3条は、市民、地域づくり協議会、自治会、市民活動団体、事業者及び市が、市民自治によるまちづくりを進めていく上で、常に意識すべき基本的な考え方を基本理念として掲げています。

- (1) まちづくりは誰かがやってくれるものではなく、私たち自らがやることを自覚し、みんなが、まちづくりに関心を持ち、できることから主体的に活動に取り組むことが大切です。
- (2) 事業や活動の目的を、関係する担い手同士でよく理解し、それぞれが進んで行動することが大切です。
- (3) まちづくりの担い手同士が対等であり、それぞれが自立した存在として尊重し合うことが大切です。市民等は、市の下請け先や仕事の押し付け先ではなく、お互いが対等な立場で自主性を大切にして、まちづくりを進めます。  
地域づくり協議会や市民活動団体においては、対等な関係を維持するため、市からの支援に依存することなく、自立して、目的達成のための活動を行っていくことが大切です。  
また、まちづくりには、市民等が集まり、議論し、知恵を出し合い、みんなで行っていき対話が大切です。話し合い、合意形成することでより良いまちづくりを目指します。
- (4) 多くの市民等に主体的に関わってもらうためには、まちづくりに関心を持ってもらうことが第一歩となります。そのため市民等及び市は、それぞれが持つまちづくりに関する情報を提供し合い、共有することが重要です。

(市の責務) 【一部改正】

第4条 市は、市民自治によるまちづくりの推進に資する基本的かつ総合的な施策を実施するものとする。

2 市は、市民自治によるまちづくりが円滑に推進されるよう、必要な情報を積極的に提供するものとする。

3 市は、市政における市民等の参加機会及び市民同士の対話の場を積極的に提供するものとする。

解説： 第4条は、市の責務を規定しています。

改正前は、「市の役割」として、事業者の次の条に規定していましたが、市の責務として市民等と一緒に取り組むという姿勢を強く表すために、役割を責務として市民の役割の前に規定しました。

1 基本的かつ総合的な施策とは、第10条に掲げる施策とその手段である事業を体系化したもので、各施策・事業の目標と相互の関係を明らかにしながら取り組みます。

市は、市民等と同様に、まちづくりの主体としての責務、市民等の市民活動を支援していくサポーターの責務があります。

2 市は、市民自治によるまちづくりの環境を整備していく責務があります。特に、市民自治によるまちづくりに必要な情報を積極的に提供することで、市民等及び市が情報を共有し、活動が円滑に行われると考えます。

3 市政に広く参加してもらえるような機会を積極的に提供し、さまざまな角度からの市民等の参加により、市民が主体となったまちづくりを進めます。

※市の具体的な施策は、第10条 市の施策で説明しています。

(市民の役割) 【一部改正】

第5条 市民は、地域の一員として、地域の課題に対し主体的に取り組むよう努めるものとする。

2 市民は、地域づくり協議会、自治会及び市民活動団体の活動の重要性を理解し、参加又は協力するよう努めるものとする。

3 市民は、地域の課題を、市民等及び市へ発信する機会の活用に努めるものとする。

解説： 第5条は市民の役割を規定しています。

1 市民は、地域社会を構成している最小の単位です。自治会や市民活動団体等の構成員、事業所の社員や市の職員も市民であり、自らが暮らす地域社会をより良好にするため、小さなことでも自らが考え行動し、身近な地域社会の課題を解決していくことが求められます。

2 市民には、地域づくり協議会や自治会、NPO、ボランティア団体等が行う地域を良好にするための共同活動や社会貢献活動、市政に参加することが求められます。

3 地域の課題は、一人で解決できるものばかりではありません。身近な地域づくり協議会、自治会及び市へ困りごと等を相談することが大切です。まず、身近な相談窓口である交流センター\*へご相談ください。

いずれも、「努める」としたのは、まちづくりは強制されるものではありませんが、努力していくことを原則とするものです。

交流センター（詳細については、23ページを参照してください。）

開館日：火曜日～日曜日（月曜日及び祝日、年末年始は休館）

開館時間：午前8時30分～午後9時30分（職員は午後5時まで）

(地域づくり協議会の役割) 【新規】

第6条 地域づくり協議会は、地域における課題の解決に努めるとともに、地域の魅力の向上に努めるものとする。

2 地域づくり協議会は、構成する団体及び個人が、それぞれの活動をより効率的かつ効果的に行うことができるように、情報を共有するための環境づくりに努めるものとする。

3 地域づくり協議会は、地域における課題を調査把握し、活動の方針や内容等を定めた地域の計画を策定するよう努めるものとする。

4 地域づくり協議会は、市や他の市民活動団体と連携し、地域の実情に合ったまちづくりに努めるものとする。

5 地域づくり協議会は、市民等へ活動に関する情報を発信するよう努めるものとする。

解説： 第6条は、地域づくり協議会の役割を規定しています。

1 地域づくり協議会は、磐田市自治会連合会と市が「持続可能なまちづくり」のために研究を重ね、市内に組織されました。単位自治会を越えて地域として連携し、より効率的かつ効果的な活動を行い、地域の課題解決と魅力の向上に努めます。

このうち、単位自治会を越えて地域として連携する例として、小学校までの通学路での見守りや旗振りは、複数自治会で連携して取り組むことで、人員削減につながるとともに、共通認識の共有が進み、課題解決しやすくなります。

また、地域の魅力を向上する例としては、地域の自然環境を生かした憩いの場などの整備や、地域に伝わる歴史や伝統行事などを生かしたまちづくりに取り組むことが挙げられます。

2 地域づくり協議会は、主に地域で活動する個人や団体などが集まって構成されています。これまで個々に活動していた団体がお互いの活動内容を理解し、情報を共有することで、組織及び類似事業の整理が図られ、効率的かつ効果的に取り組むことができます。



3 地域の課題を調査把握し、地域の計画を策定するとしています。

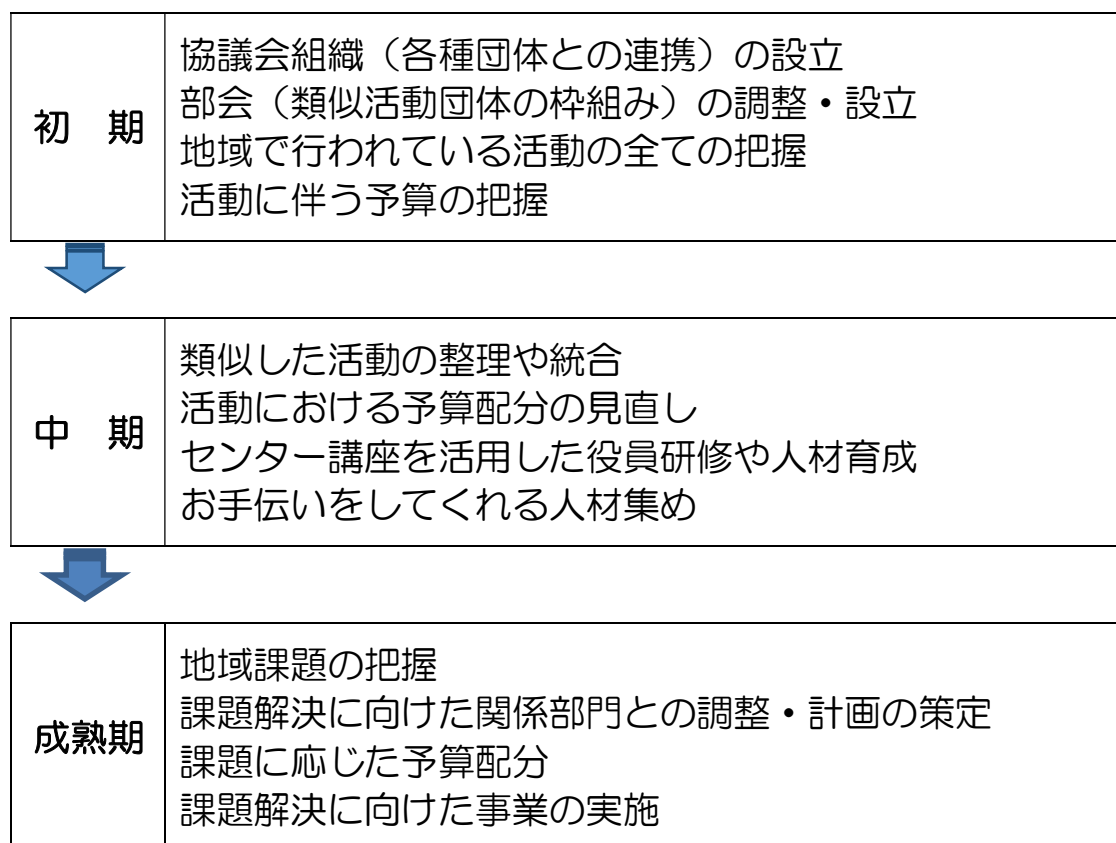
まずは、地域づくり協議会が、住民アンケートの実施などを通して、地域の課題を把握すること。次に、把握した地域の課題の解決に向けた地域の計画を立てること。これらによって、市民自治の推進によるまちづくりが進むことが期待されます。

「地域の計画」とは、年度ごとの事業計画や予算案から、中長期的な視点に立った計画までさまざまです。協議会の現状において、適正な計画を立てることが求められます。

4 地域づくり協議会は、計画の策定や活動において、市や他の市民活動団体と連携・協力して取り組みます。

5 地域づくり協議会は、市民等の協議会活動への理解と協力を求めるために、市民等へ活動に関する情報を発信します。

#### 【地域づくり協議会の活動の流れ】



## 【地域づくり協議会一覧】

竜洋住みよいまちづくり協議会

見付地区地域づくり協議会

中泉地区地域づくり協議会

長野地域づくり協議会

岩田地域づくり協議会

御厨地域づくり協議会

今之浦地区まちづくり協議会

南地区地域づくり協議会

大藤地域づくり協議会

向笠地域づくり協議会

西貝地域づくり協議会

南御厨地域づくり協議会

田原地域づくり協議会

豊浜地域づくり協議会

福田南まちづくり協議会

福田中央地域づくり協議会

池田地区運営協議会

青城まちづくり協議会

井通地域づくり協議会

豊田東地区まちづくり協議会

富岡地域づくり協議会

豊岡中央地域づくり協議会

豊岡東地域づくり協議会

(自治会の役割) 【新規】

第7条 自治会は、自治会の区域での活動を基本とし、市民相互の助け合い、交流及び親睦を深める活動に努めるものとする。

2 自治会は、市と連携し、区域の課題の解決に取り組むよう努めるものとする。

3 自治会は、地域づくり協議会と連携する団体として、地域づくり協議会が行う活動への理解及び協力を努めるものとする。

4 自治会は、活動に関する情報を発信するよう努めるとともに、地域づくり協議会の活動に関する情報を市民へ伝達するよう努めるものとする。

解説： 第7条は自治会の役割を規定しています。

1 自治会は、自治会区域での活動を基本とします。祭典やイベントなどの活動をとおして、顔の見える関係づくりを図っており、わたしたちの一番身近にある組織です。

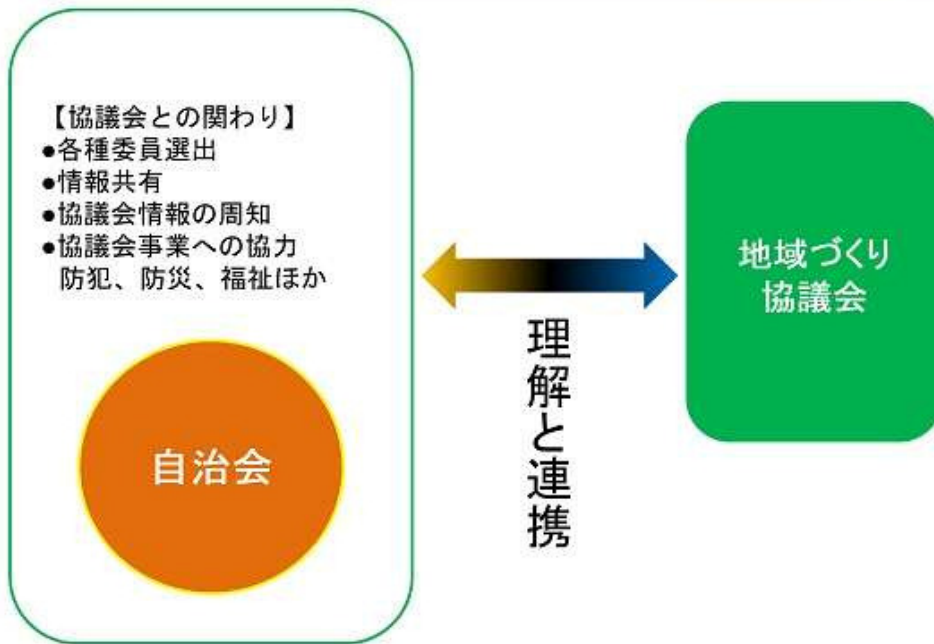
2 自治会は、自分たちの地域をよくするために活動する互助による組織で、自治会長を中心に、誰もが安全で安心して暮らせるために、自主防災活動やごみ集積場の管理、防犯灯の管理、子どもや高齢者の見守りなどを行っています。また、市へ交通安全対策や道路河川の整備など要望をとりまとめています。

3 自治会は、地域づくり協議会と連携する団体として、協議会委員※を選出するとともに、単位自治会では解決できない広域的な取組みへの理解や協力をしています。

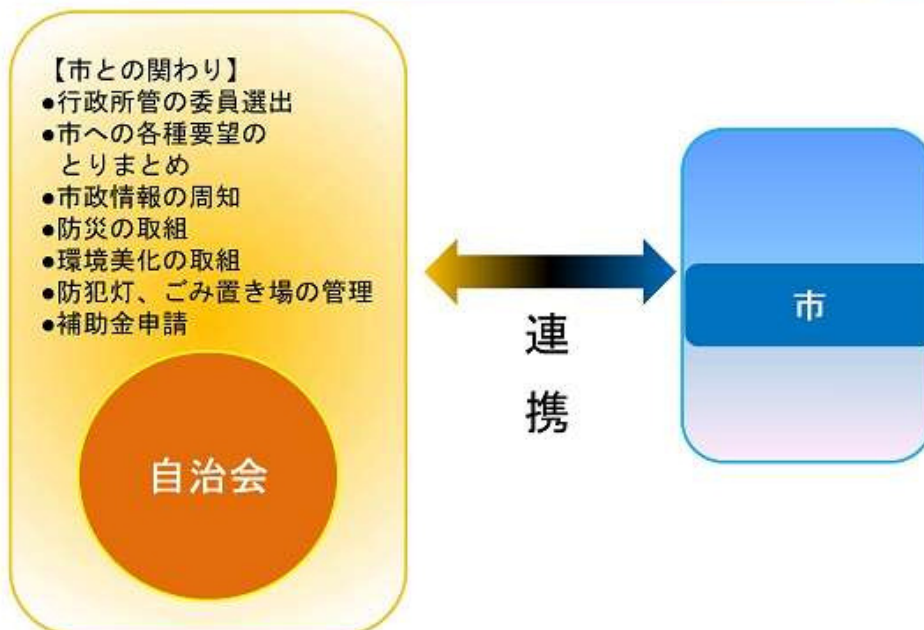
※ 委員：防犯交通安全委員、自主防災会長、青少年健全育成委員など。

4 自治会の活動に関する情報を発信するとともに、地域づくり協議会の活動に関する情報について、より効率的かつ効果的な活動となるよう市民への情報伝達に努めます。

## 自治会と地域づくり協議会との関係



## 自治会と市との関係



(市民活動団体の役割) 【一部改正】

第8条 市民活動団体は、活動する分野における情報と知識や専門性を活かし、自らが果たす社会的意義を自覚し、市民活動の推進に努めるものとする。

2 市民活動団体は、市民等及び市と連携するよう努めるものとする。

3 市民活動団体は、自らの活動の情報を発信し、市民等の理解及び参加の促進に努めるものとする。

解説： 第8条は、市民活動団体の役割を規定しています。

1 市民活動団体が果たす社会的意義には、地域社会への貢献、自己実現や生きがいの場の提供、地域経済の活性化などがあり、市民活動団体には、これらの活動を一層推進することが求められます。

2 NPO<sup>\*</sup>、ボランティア団体等の市民活動団体は、社会のさまざまな課題などに対して主体的に取り組んでいますが、これらの取組みは、その団体内だけに留まるものではなく、市民や地域づくり協議会、自治会との関わりを持って行われています。そのため市民活動が、より多くの市民等に理解され、さまざまな担い手と連携、協力しながら活動の輪を広げていくことが大切です。市民活動センターや交流センターに相談するなどし、同じ目的を有する様々な個人や団体が気軽に交流できる場を設け、地域や他の市民活動団体と連携することが求められています。

<sup>ノンプロフィット</sup> <sup>オーガニゼーション</sup>  
\*NPO (NonProfit Organization) とは、一般的には、非営利での社会貢献活動を行う市民活動団体のことをいいます。それぞれが、福祉や防災などテーマについての知識や専門性を有しており、地道に活動をしていただいています。

3 市民活動団体は、市民と同様にまちづくりの主体としての役割に加えて、自らの活動情報を積極的に発信し、市民のニーズを捉えて必要なサービスや活動の場を提供する役割が期待されます。

(事業者の役割) 【一部改正】

第9条 事業者は、地域を構成する一員として、社会的責任に基づき、地域に貢献するよう努めるものとする。

2 事業者は、従業員が居住する地域の活動に参加することに配慮するよう努めるものとする。

解説： 第9条は、事業者の役割を規定しています。

1 事業者は、地域とのコミュニケーションを通じて地域との共生を図り、地域の課題の解決に貢献することが求められます。

まち美化パートナー制度

公共施設の清掃美化や草刈、花壇やフラワーポットなどの草花の維持管理などを、事業者が場所を決め、ボランティア活動として行っていただいています。



※市と「パートナー合意書」を取り交わします

2 従業員が「自治会の行事や会合」、「PTA活動などの地域活動」、「消防団活動」などへ参加しやすくなるよう、参加に配慮していただくことが求められています。

従業員が地域活動に参加することが増えると、社会に対する責任を果たすことにつながるとともに、従業員一人ひとりの自己実現や自発性の向上をもたらし、組織全体の活性化につながります。

また、退職後の生きがいづくりに寄与したり、地域活動の仲間が増えたりすることにつながります。

「消防団の活動に協力する事業所等を応援する県税の特例に関する条例」

静岡県では、消防団員の減少に歯止めをかけるため、消防団活動に協力していただける事業所等の増加を目的として、事業税の控除の制度を設けています。

(市の施策) 【一部改正】

第10条 市は、市民自治によるまちづくりを推進するため、次に掲げる事項について、市民等と協力し、取り組むものとする。

- (1) 市民自治の意識の醸成及び啓発に関すること。
- (2) 相談窓口の充実及び活動機会の提供に関すること。
- (3) 情報交換、評価の仕組み及び市民等の参加の仕組みに関すること。
- (4) 市民自治によるまちづくりを担う人材育成に関すること。
- (5) 地域づくり協議会、自治会及び市民活動団体の財政支援に関すること。
- (6) 地域づくり協議会、自治会及び市民活動団体の活動拠点の支援に関すること。
- (7) その他、市民自治によるまちづくりの推進に関し必要なこと。

2 市は、前項の施策を実施するため、市民自治によるまちづくりに対する意識を高め、組織体制の整備及び連携の強化を行うものとする。

解説： 第10条は、市の施策を掲げ、市民等と協力しながら取り組むことを規定しています。

- (1) 市民自治によるまちづくりに対する意識の醸成や意識啓発を行うため、広報などによる啓発や、交流センターや市民活動センターによる研修会などの事業を実施します。
- (2) 市民自治によるまちづくりは、市民活動が一層活発になり、その活動に関係する担い手がより良好な地域社会づくりに向けて協力し合うことによって推進されます。そのため、地域の実情に合ったまちづくりや市民活動について、気軽に相談できる窓口を充実します。  
交流センターや市民活動センターでは、市民活動、地域活動をはじめてみたい、参画してみたいという方への相談や情報提供、人つなぎを行っています。  
また、実際に体験できる機会を提供するため、市民活動センターによる実践的な講座や既存のまち美化パートナー制度などをさらに推進します。
- (3) 第12条で規定する磐田市みんなが主役のまちづくり委員会で意見交換をしたり、市の取組に対する進捗や事業の確認をしたりします。また、市民等が市民活動の状況や地域社会の課題等の情報を発信し、相互に共有できる仕組みを整備します。

- (4) 自治会をはじめ、地域づくり協議会や市民活動団体は「人材不足」という悩みを抱えています。そのため市民自治によるまちづくりの担い手となる人材を確保し、育成することが重要であることから、人材育成のための交流センター講座の開催や市民活動センターが主催する人材育成講座を支援します。
- (5) 自治会への運営費交付金をはじめ、市民活動センターの運営委託や財源を有効に活用できる支援制度として、地域づくり協議会に対する「地域づくり応援一括交付金」の交付などを行っています。
- (6) 活動拠点の支援として、自治会へ公会堂整備のための補助金などを支出しています。また、交流センターや市民活動センターなどの施設を設置しています。
- 交流センターの職員は、地域づくり協議会の事務局として協議会の運営を支援しています。
- また、市民活動センターは、テーマをもって活動し、特に活動地域を定めない方を中心に、会議場所や印刷等の支援をしています。
- さらに、活用の可能な民間施設の情報も収集し、他の公共施設と併せて、活動の場に関する情報を提供していきます。
- (7) 上記に掲げるものの他、市民自治によるまちづくりを推進するために必要な事業を実施します。

2 職員の市民自治によるまちづくりに対する意識を高める研修会の実施や、市民等にとってわかりやすい組織となるように、市役所内の体制を整備し、併せて横の連携を強化していきます。



## 交流センター（平成27年4月～）

公民館やコミュニティセンターを、平成27年4月より『交流センター』に名称を統一して、地域活動の拠点施設となっています。

### 「地域活動拠点施設としての交流センター」

- 地域への会議室など施設の貸し出し
- 印刷機の使用
- 地域活動や学校行事、講座のお知らせなどの「センター便り」の発行

### 「生涯学習の推進を担う交流センター」

- 趣味の講座から役員研修や地域づくり講座まで、人材育成につながる講座の実施
- サークルや団体への施設の貸し出し

### 「地域づくり活動支援を行う交流センター」

- センター長は協議会の事務局長を担い、協議会運営をサポート
- 協議会や自治会などの申請書類や会議資料などの作成を支援
- センター利用者や受講者などを中心に地域活動協力者の募集・登録

### 「市の身近な窓口としての交流センター」

- 自治会に関する各種補助金申請書類の受付窓口
- 保健師が地域に出向き健康相談業務などを行う「まちの保健室」を実施
- 困りごとなどの簡単な相談対応や担当課へつなげる役割

## 市民活動センターのつぼ（平成22年6月～）

思いとひとが、「出会い・つなぐ・つながる」

- 前身は、平成12年に設置され、市内のNPO法人等の市民活動団体によって運営されていた磐田NPO交流センターです。
- 市が設置し、NPO法人磐田まちづくりネットワークがその運営を受託しています。
- 磐田市のワークピア磐田内に設置されています。
- 「のつぼ」は、磐田市内を活動の場として、非営利のボランティアや市民活動を行う団体・事業者及びNPO活動に関する活動や相談をされる方にご利用をいただいています。
- 市民活動の情報の収集や発信、活動していただいている皆さんの交流の促進を目的とした展示会や情報交換会をはじめ、「いわた減災ネットワーク連絡会」の運営など、分野ごとの市民活動団体の連携推進をしています。
- 近年では、地域づくり協議会と市民活動団体との連携コーディネートを支援しています。



ホームページ

## 外国人情報窓口

「多様な文化がもたらすまちづくりの担い手を支援」

- 磐田市の人口の内、約6%を外国人が占めており、近年もその人数は増加傾向にあります。  
文化や言語の違いはありますが、外国人市民も地域を支える大きな力です。
- 外国人で転入や、転居をされる方などへ多言語資料を用い、自治会、ゴミの出し方、税金、健康保険、防災、交通安全、教育、日本語教室など、磐田市で生活するために必要な情報の提供、専門窓口の案内などを行っています。



Facebook

(人材の確保と育成) 【新規】

第11条 地域づくり協議会、自治会及び市民活動団体は、まちづくりを推進する人材の確保と育成をするため、次に掲げる事項に取り組むものとする。

- (1) 主体的に活動を推進すること。
- (2) 市民等が参加しやすい透明性の高い運営を行うこと。
- (3) 市民等が主体的に活動に参加できる機会をつくること。
- (4) 子ども、若者及び女性の社会参加の重要性について理解し、その参画を推進すること。
- (5) 市民活動に参加する人材の交流を促進すること。

解説： 第11条は、市民自治によるまちづくりを推進するうえで、必要な人材の確保と育成について規定しています。

人材育成については、第10条の市の施策の中でも規定していますが、地域づくり協議会や自治会及び市民活動団体が自ら人材の確保と育成をすることが大切です。

- (1) やらされるのではなく、自ら主体的に活動をすることで、その意義を伝えることができることから、人材の確保と育成につながります。
- (2) 意思決定の過程や会計処理などの面で、透明性の高い運営を行うことによって、活動に対する理解が深まり、人材の確保と育成につながります。
- (3) 意思決定に参加したり、自分の意見が言える機会を提供したりすることで、参加者が主体的に活動をするきっかけとなります。
- (4) 特に次代を担う子ども、若者や女性の社会参加や参画についての意識を高め、活動することで、それぞれの特性を生かしたまちづくりが期待されるとともに、人材の確保と育成につながります。

また、年齢や性別にかかわらず、退職された方や現役世代の方の参加促進も必要です。

- (5) 人材の確保と育成は、人と人がつながることがその第一歩です。このため、活動に参加してくれた方同士の交流が促進されるよう機会をつくることが大切です。

#### 【人材の確保と育成】

##### 市民ファシリテーター養成講座：市民活動センター

ファシリテーターは、人と人とを繋ぎ、対話の場の進行役と話合いのプロセスを担います。現在、受講生の有志が、出来る時に、出来る事を、それぞれの役割を楽しみながら、更なる学びや経験を重ねており、今後は地域づくりの場などにおいて、市民同士のコミュニケーションを円滑にして、より効果的な意思決定のお手伝いができるようになることが期待されます。

##### 中学生地域リーダー養成講座：静岡県

中学生の健全育成を目的として、静岡県青少年指導者級別認定事業（中学生地域リーダー養成講座）が実施されています。

これにより、中学生が地域からの要請に応じて、地域活動の企画から実施までお手伝いをしています。

##### 交流センター講座：地域づくり協議会と市と連携

地域の課題を解決するとともに、まちづくりの担い手を育成するために、交流センター講座を地域と市が連携して開催しています。

テーマは、防災や福祉などその地域の実情にあった講座を実施しています。

例：井通交流センター「あなたがリーダー講座（防災）」

豊岡東交流センター「しきじワークショップ：地域文化の伝承と保存」

竜洋交流センター「終活、介護、介護予防、認知症」「竜洋歴史講座」

(磐田市みんなが主役のまちづくり委員会の設置) 【一部改正】

第12条 市は、市民自治によるまちづくりの推進に関する事項を調査審議するため、磐田市みんなが主役のまちづくり委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、市民自治によるまちづくりの推進に関し、市長に意見を述べることができる。

3 委員会は、委員12人以内をもって組織する。

4 委員は、市民等、識見を有する者及び市の職員のうちから市長が委嘱又は任命する。

5 委員の任期は2年とし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

6 前各項に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

解説： 第12条は、市民自治によるまちづくりを推進するための調査審議の機関として、必要に応じて「委員会」を設置することや委員構成などを規定しています。

#### 【委員の例】

条例策定検討委員会	いわたまちづくりワークショップの意見より
<ul style="list-style-type: none"><li>• 学識経験者</li><li>• 関係団体の代表者 (自治会連合会、地域づくり協議会、市民活動センター、市民活動団体、市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会)</li><li>• 公募により選出された方</li><li>• その他市長が必要と認める者 (交流センター長)</li></ul>	<p>左記のほか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 学生（小、中、高、大、専）</li><li>• 障害のある方</li><li>• 外国籍の方</li><li>• 市民ファシリテーター</li><li>• 学校の代表者</li><li>• 事業者</li><li>• スポーツ選手</li><li>• 民生委員</li></ul>

(委任) 【改正なし】

第13条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

解説： 第13条は、この条例で定めるもの以外に、条例の施行について必要な事項は、市長が別に定めると規定するものです。

磐田市みんなが主役のまちづくり条例 解説書

令和6年3月作成

発行 磐田市自治市民部自治デザイン課

電話 0538-37-4811

FAX 0538-32-2353

E-mail [chiiki-ohen@city.iwata.lg.jp](mailto:chiiki-ohen@city.iwata.lg.jp)